第２回加古川市かわまちづくり協議会　　会議録

日　時	令和３年１２月２２日（水）　午後２時　から　午後３時 10 分　まで
場　所	加古川市立勤労会館 201 会議室
出席者	加古川市　岡田市長（議長） 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所　深澤副所長 加古川市町内会連合会　岸本会長 加古川商工会議所　釜谷会頭 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科　武田准教授 加古川漁業協同組合　渡辺組合長 兵庫県東播磨県民局　小川局長（オブザーバー） 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所　春藤統括保全官、小林課長 加古川市　守安副市長 市民協働部　田中部長、栗山次長 建設部　中務部長 【事務局】 市民活動推進課　山野課長、西川副課長、村上尚係長、村上大主査 治水対策課　正中課長
傍聴者	０人

■決定事項

・加古川市かわまちづくり計画（以下「計画という。」）（案）の内容を、本日のかわまちづくり協議会（以下「協議会」という。）で協議した内容を基に修正する。修正については、加古川市と国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所（以下「姫路河川国道事務所」という。）に一任する。

■会議資料

・資料①　第２回加古川市かわまちづくり協議会出席者名簿
・資料②　加古川市かわまちづくり協議会設置要綱
・資料③　加古川河川敷を活かした新たな賑わいづくり事業進捗資料
・資料④　これまで実施したシンポジウム等の意見・アイデアの分析
・資料⑤　加古川市かわまちづくりゾーニングイメージ（案）
・資料⑥　加古川市かわまちづくり計画（案）
・資料⑦　加古川市かわまちづくり計画策定スケジュール

■会議要旨・質問・意見

１　加古川市かわまちづくり協議会について

- 資料①・②に基づき岡田市長が説明。
- 水面の活用について、より専門的な見地から意見をいただくため、令和３年８月25日付けで加古川市かわまちづくり協議会設置要綱を改正し、加古川の漁業権を有する加古川漁業協同組合の渡辺組合長に新たに委員に就任いただいた。

２　これまでの取組について

- 資料③に基づき事務局（市民活動推進課長）が説明。

（質問・意見）

岡田市長　：　加古川市協働のまちづくり推進事業補助金（以下「補助金」という。）を活用して加古川・河川敷で実施するイベントを実際に見て、改めてポテンシャルを秘めていると感じた。補助金のテーマ設定型は、加古川・河川敷における魅力的な賑わい空間の創出を目的とした市民が楽しめるイベント等に対して、上限を100万円として100％補助している。イベント主催者は、既に他の地域で同様のイベントを開催している団体もあれば、補助金をきっかけとして、今回初めてイベントを実施する団体もあった。イベント主催者を始め、様々な方に加古川・河川敷でイベントを実施できることを認知していただくことができた。

武田准教授：　私は加古川市に住んでいないが、加古川市に住んでいる知人は加古川・河川敷で何かが始まっていると感じ取っており、加古川のかわまちづくりは良いスタートが切れていると感じる。この事業はハード整備完了がゴールではないため、次のステップとして、いかに持続的にこのエリアを運営していくかを検討していく必要がある。今年度実施した、シンポジウム・ワークショップ、アンケート調査、Decidimは市民の声を聞く場であるとともに、市民との情報共有の場にもなっている。ワークショップでは市民が活発にアイデアを出し、市民の夢が詰まった加古川かわまちプランが完成したと聞いている。高校生や大学生の若者が熱心に語った夢を、今後大人がどのように受け止めて実現に向けて取り組むかが大事であると考える。ワークショップのような、地道な共感を広げていく事業を継続的に実施していくことで、このエリアを持続的に運営できる体制が整ってくると考える。今年度初めて河川敷でイベントを実施した「加古Re:birth」のような市民活動団体が生まれることは、とても良いことだと思う。

渡辺組合長：　補助金を活用して、加古川・河川敷でイベントを実施していたが、今後も継続して実施していく方が良いと考えるが、来年度も同様に実施されるのか。

事 務 局　：　補助金のテーマ設定型については、１事業100万円を上限として100％を補助しており、河川敷に賑わいをつくりたいと思う方に一歩踏み出してもらうきっかけとして、また河川敷の賑わいづくりの機運醸成を目的として実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、大規模な集客イベントが思うように実施できなかった部分もあるため、令和４年度も同様に補助したいと考えている。将来的には、市民活動団体に自立していただき、イベント等を開催してほしいと考えている。

渡辺組合長：　補助金の交付決定を受けているリバーツーリングの実施について、主催者と加古川漁業協同組合で現在、協議を行っている。補助金を活用しながら参加料を徴収すると聞いているが、主催者が利益を得ることはないのか。

事 務 局　：　リバーツーリングの参加料は、実費分を徴収する予定であると聞いている。他のイベントでも出店料を徴収したり、企業協賛金を集めたりと収入がある場合があるが、その場合、収入を除した分を補助している。リバーツーリングについても公共の場での公益的な事業としての申請であり、参加費だけで成り立つものではなく、補助金を活用することで、安価にカヌーの体験ができる事業となっている。

釜谷会頭　：　令和３年度に補助金を活用し、加古川・河川敷で実施している事業はどれぐらいあるのか。

事 務 局　：　中止となった事業はあるが、採択した数は１２事業である。

釜谷会頭　：　審査で落とした事業はあるのか。

事 務 局　：　提案書を提出するまでに市民活動推進課と提案者との間で、事業内容について確認・協議しており、結果的に審査で落ちたものはない。

岡田市長　：　補助金は事業収入の足りない部分を補助しており、イベントを実施する際の重要な要素である。また、平成２３年に河川敷占用許可準則の一部改正が行われており、本市としては堤防の上でカフェ等を営業し、営利活動を行っていただくことを念頭においている。計画に営利活動の可否について記載するか議論としてあっても良いと思う。

３ 加古川市かわまちづくり計画（案）について

- 資料④・⑤・⑥に基づき事務局（市民活動推進課長）が説明。
- シンポジウム・ワークショップ、Decidim、アンケート調査等の結果を基に、加古川市かわまちづくりゾーニングイメージ（案）を作成した。ゾーニングイメージ（案）は、最終的な整備イメージではなく、あくまで市民の意見やアイデアを反映したイメージとなっている。
- 今後、姫路河川国道事務所と調整しながら内容を精査して計画を策定し、国に申請・登録と進めていきたいと考えている。

（質問・意見）

深澤副所長：　ゾーニングイメージ（案）の中で、工夫すれば今あるものをそのまま使える部分もあると思う。一方で堤防・護岸について、本来の機能が最優先されるべきなので、バランスが重要だと感じる。ステージについても、河川区域内で占用する基準がある。様々な地域で、河川敷を占用し水面へのアクセスを良くして水面を利用しているが、残念ながら事故も発生している。揖保川でも２件の水難事故があった。河川を利用することが悪いわけではなく、水辺の危険性や事故が起きたときの対処法などを啓発していくことが大切であると考える。

岡田市長　：　ゾーニングイメージ（案）の親水護岸となっているところは、現在も階段になっているが、その手前に柵が設置されている。この柵は過去、様々な経緯があって設置されたと聞いている。水辺の危険性に関する啓発活動や安全対策は、十分に行っていきたい。

武田准教授：　計画（案）の６ページにあるコンセプトについて、「駅からの回遊性を活かした」とあるが、この事業をきっかけに新しく回遊性をつくるという意味で「駅からの回遊性を生み出す」とした方が良いのではないかと思う。また１３ページに「“川で憩い、時々ワクワク”」とあるが、このようなキャッチコピーは非常に良いと思うし、ワークショップを開催して市民を巻き込んで考えても面白いと思う。８ページに歩行者ネットワークのイメージがあるが、加古川駅から河川敷までの徒歩の動線に関して大きな課題があると思う。ＪＲ神戸線沿いの高架下は直線であるため、比較的スムーズな動線となるように思うが、回遊性とするならば西国街道からのアクセスも重要と考える。加古川橋の架け替えと合わせたアクセス性の改善を行うことができれば、より事業効果が高まると考える。

岡田市長　：　計画（案）については、本日、議論した内容を可能な限り反映したい。寺家町商店街の活性化については、ワークショップでも市民の皆さまに検討いただいたが、地権者をどのように巻き込んでいけるかが課題だと考えている。

事 務 局　：　甲南大学と実施している「知を結ぶプロジェクト」において、かわまちづくりをテーマとして研究していただいているゼミがあり、その中でも寺家町商店街の活性化に関するアイデアがあった。加古川駅周辺の回遊性について、庁内の他のプロジェクトチームや関係部局と連携し、加古川・河川敷を１つの回遊拠点として位置付けながら、新たな動線を繋げていきたいと考えている。協議会実行委員会（以下「実

行委員会」という。）において、加古川商工会議所で動線調査を長年行っていると意見をいただいた。最近５年で一番人流が増えている場所は、ニッケパークタウンの東側にある県道18号加古川小野線の上高地あずさ珈琲のところの横断歩道であり、寺家町商店街の人流は増えていないとのことであった。こうした調査結果も踏まえ、庁内で議論していきたいと考えている。

渡辺組合長：　ゾーニングイメージについて、基本的には良いと思う。加古川バイパスの橋の下は雨が降ると水が溜まりやすいが、橋が大きく日陰にもなっているので、国土交通省と協議して有効活用できないか。多目的広場で音楽会を行えるように整備しても良いと思う。また保育園・幼稚園の園児、小学校低学年の児童が遠足に行こうと思える場所にしてはどうか。水面利用の際は、加古川堰堤を上手く活用してほしい。今年度、加古川堰堤のところで青年会議所が子どもを対象に鮎の放流を行ったが、安全でとても良い場所であった。ＳＵＰやカヌーでも活用できると思う。いこいエリアについて、既にあるコンクリート部分は、わんどのようになっているところもあるため、上手く活用すれば魚の釣り場になる。今の状態で魚を放流しても逃げてしまうので、魚が逃げないように整備すれば良く釣れる釣り場になり、子どもも楽しめると思う。ＪＲ南側の親水護岸と書いている部分は、今土砂が溜まっており、雑木もたくさんあるが、少し手入れをすれば親水護岸に活用できる。全体的な部分について、加古川駅からの動線を検討しているが、駅から来る人ばかりではないため、その方々が気軽に来られるように工夫する必要があると思う。

岡田市長　：　ゾーニングイメージ（案）の舗装広場に駐車場拡大と記載しているように、車で来る人は多いと考えており、状況に応じて、多目的広場や運動広場を臨時の駐車場とすることも想定している。親水護岸等で魚のつかみ取りができるようになれば、川の魅力を感じられる最高の場所になると思う。加古川漁業協同組合のご理解とご協力がないと実現できないため、組合員の皆さまへ情報を共有していただき、アイデア・ご意見をいただきたい。

釜谷会頭　：　イベント等での土日の賑わいづくりをメインに考えていると思うが、飲食店やカフェを設けるのであれば、平日の賑わいづくりについても検討する必要がある。土日だけ賑わっているエリアに出店したいと思う事業者は少ない。平日に、園児・児童に来てもらうのも、賑わいづくりの１つだと思う。

岡田市長　：　９月議会で承認いただいた予算で、現在事業者に堤防天端への出店に関するサウンディングを行っている。

事 務 局　：　サウンディングを始めたばかりではあるが、路面店であれば前面道路の交通量等の出店条件があり、その条件をクリアしないと収益が見込めないといった意見もある。平日も含めて賑わいをつくれるかがポイントであり、課題でもあると感じている。拠点機能について、民間と公共のバランスを含めて検討していかなければいけないが、市民が河川敷を利用するにあたって、役立つ機能を拠点に持たせることにより、いろんな方に様々な場面で利用いただけると思っている。例えば、平日に園児が遊びに行くためには、日陰や手洗い場等が必要で、拠点施設を設置することによって解消できるものもあると思う。水面利用については、様々なご提案をいただいたため、加古川漁業協同組合にご協力いただきながら実現性のある内容を計画に盛り込んでいきたいと考えている。

深澤副所長：　加古川バイパスの橋の下は、制限はあるが工夫次第で様々な活用ができると思う。川の中についても、水が流れるところであるため土砂が溜まったり、木が生えたりするが、今ある川をどう利用しやすくするかを検討すれば良いと思う。わんどのようにする方が良いかどうかも検討するポイントだと思う。

岡田市長　：　今日の議論を基に、計画（案）を修正する。計画（案）を大きく変更することはないため、修正については、本市と姫路河川国道事務所に一任していただいてよろしいか。

全 委 員　：　異議なし。

岡田市長　：　本日の意見を踏まえて、計画（案）を修正する。計画内容を大きく変更する際は、委員に報告する。

４ 今後の進め方について

- 資料⑦に基づき事務局（市民活動推進課長）が説明。
- ３月に開催する協議会で「加古川市かわまちづくり計画」を決定し、「かわまちづくり支援制度」実施要綱に基づく登録に向け、令和４年４月に申請を行う予定である。

（質問・意見）

小川局長　：　今年度、加古川商工会議所青年部が加古川駅の北側でイベントを実施した。大勢の人で賑わっており、イベントをすれば人が集まるということを実感した。明石市では砂利揚げ場の跡地で、明石ウォーターフロントパークＧＲＡＶＡ（グラバ）がオープンしている。飲食店はないが週末にキッチンカーを出店し、飲食スペースを設けている。交流広場で飲食について検討していると思うが、キッチンカーを呼ぶというのも１つの方法であると思う。また、ＧＲＡＶＡには参加料が１回１万円の釣り堀もあり、好評だと聞いている。

岸本会長　：　３月に加古川河川敷を活かした新たなにぎわいづくり懇話会に出席した際は、具体的なかわまちづくりのイメージが湧かなかったが、今年度、様々な取り組みを行うことにより市民にも認知されてきたと感じている。

渡辺組合長：　これからかわまちづくりを進めていき、兵庫県下で一番賑わう河川敷にしたいと思っている。

武田准教授：　令和４年度にシンポジウムの開催を予定しているが、可能であればワークショップも継続して開催する方が良いと思う。令和４年度だけでなく、ハード整備期間中や整備後も同様で、例えば対象エリアの使い方や運営プログラム等の話し合いの場として活用することが大事だと思う。令和４年度から、基本設計・詳細設計を含めて工事に取り掛かるようにスケジュールが組まれている。今は市民活動推進課を中心として、部局間でスムーズに意見交換をしながら上手く事業を進めている。一方で、長期間の工事を伴うため、かわまちづくりに特化した部門を設けて事業を進めた方が、効果的な事業執行に繋がると考える。

岡田市長　：　本日の協議会には、建設部の職員も出席している。また、庁内ではプロジェクトチーム・ワーキンググループを設置してかわまちづくりを進めており、市の一大プロジェクトになろうとしている。今後、かわまちづくりを進めていきながら、推進体制を検討していきたい。来年度も補助金を活用して河川敷で実施するイベントの開催が予定され、新たに加古川・河川敷の賑わいづくりに関わる関係者も増えていく中で、ワークショップの開催など市民を巻き込んでかわまちづくりを進めていく方法を今後検討していきたい。

渡辺組合長：　シンポジウム・ワークショップにおいて市民の声を聞いているが、実行委員会等に一般市民の方は委員として入っているか。市民参画の形は様々あるが、小野市では実行委員会に市民は入っている。

岡田市長　：　実行委員会等に公募委員はいないが、シンポジウム・ワークショップの他にもアンケートやDecidim等で市民の声を聞いている。広報かこがわ１月号でも特集を組んでいるので、ご意見があるのであれば、聞いていきたい。

深澤副所長：　計画の本省ヒアリングが11月にあった。その中で、計画を市民に知ってもらう機会をつくってほしいと意見があった。計画を知ってもらうために、市民に協議会を傍聴してもらったり、ワークショップで共有することも検討しても良いと思う。水面利用について、上流も含めて川の利活用が広がり、上流との交流も含めて賑わいづくりが進んでいくと良いと思う。

岡田市長　：　ゾーニングイメージ（案）を市民が見るとイメージが湧くと思う。計画を公表するタイミングは、令和４年度当初予算案の公表時などがあるが、できるだけ早く公表できるように準備を進めたい。

以　上